



平成21年11月7日(土)

刈谷市立亀城小学校にて

「くすりの正しい飲み方：くすりと安全に安心して付き合う」 の「くすり教室」を開催

特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構は、国民にくすりを安全に安心して使っていただくために薬剤師や国民に対する教育講演や学会を開催しています。その活動の一つとして、小学生にもくすりのことを知っていただく講演会や体験実験を行っています。この活動では、愛知県下の薬学部生が実験を手伝い、将来薬剤師としての技能や態度を学ぶことも目的の一つとしております。こうした活動は、読売新聞の新年版にも取り上げられております。

平成21年11月7日(土)、刈谷市立亀城小学校にて「くすりの正しい飲み方：くすりと安全に安心して付き合う」の「くすり教室」を下記の内容で開催しました。当日は、刈谷市立亀城小学校の関係者のご協力により、小学生82名およびそのご父兄50名が参加しました。講義と体験実験は、小学生ばかりでなく、ご父兄にも大変分かり易かったと大好評でした。また、実験に関わった名城大学薬学部の研究員1名、大学院生6名、学部生23名および愛知学院大学薬学部生7名から、特に学部学生からは、平坦な言葉で説明することの難しさを経験でき、今後の勉学に大いに役立ったという意見が多く得られました。

刈谷市立亀城小学校における「くすり教室」

日時：平成21年11月7日(土) 10時~12時

場所：刈谷市立亀城小学校の第一理科室および第二理科室

内容

- ・第一部「じっけん」を始める前のお話し

くすりをどのように飲んだら良くきき、副作用を防ぐことができるか、大学院生および大学生が漫画を使ってわかりやすく説明しました。

- ・第二部：「じっけん」

小学生は16グループ(1グループ4~6名)、ご父兄は希望者数名の2グループに分かれ、お話の内容をより理解できるように、特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構理事長 鍋島俊隆、中川美千代理事および野田幸裕会員、木村裕治会員の指導の下、名城大学薬学部の大学院生および学部生と愛知学院大学薬学部の学部生が小学生とご父兄と共に実験を行いました。

制作：小谷悠、浅井玲名、肥田裕丈、
平林彩、室崎千尋、野田幸裕
監修：鍋島俊隆



<じっけん項目>

1. どうして「カプセル」になっているのだろう？
2. 「ざやく」ってなんだろう？
3. コップ1ばいの水かぬるま湯でくすりを飲むのはなぜ？
4. コップ1ばいの水かぬるま湯にも例外があるのを知ってる？
5. くすりを「お茶」で飲むとどうになってしまうの？

